

2014 年 11 月 20 日

大和インベスター・リレーションズ株式会社
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-2-1
大和八重洲ビル

Tel 03-5555-4111(代表) Fax 03-5202-2020

大和 IR、2014 年「インターネットIR表彰」を発表

大和インベスター・リレーションズ株式会社(東京都中央区 社長:駿田 和彦 以下、「大和IR」)は、上場企業のIRサイトを独自の基準で評価・採点し、特に優秀なIRサイトを構築し、情報開示ならびにコミュニケーション活動で有効に活用している 141 社を以下の通り、受賞企業として選定いたしました。

2014 年評価基準の策定においては、かねてからの海外投資家に対するフェアディスクローズの重要性向上に加え、日本版スチュワードシップ・コードの公表や非財務情報開示の重要性の高まり、JPX 日経 400 インデックスの算出開始、新成長戦略などインターネット IR を取り巻く様々な環境の変化を踏まえ見直しを実施しました。また、企業における IR サイトの一層の充実を促進すべく、各賞の選定得点基準の引き上げを行いました。

なお、2015 年 1 月 16 日(金)に表彰式を開催し、受賞企業には記念品を贈呈させていただきます。内容につきましては、別途ご案内申し上げます。



◆「2014 年インターネットIR 最優秀賞」

7 社

コニカミノルタ(4902)
東芝(6502)
日産車体(7222)
アコム(8572)
KDDI(9433)
カプコン(9697)
ソフトバンク(9984)

※証券コード順



◆「2014 年インターネットIR 優秀賞」

18 社

国際石油開発帝石(1605)
アサヒグループホールディングス(2502)
フィールズ(2767)
双日(2768)
東急不動産ホールディングス(3289)
IT ホールディングス(3626)
富士フイルムホールディングス(4901)
JXホールディングス(5020)
セガサミーホールディングス(6460)
ミネベア(6479)
日本電気(6701)
TDK(6762)
三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)
MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス(8725)
ソニーフィナンシャルホールディングス(8729)
第一生命保険(8750)
日本電信電話(9432)
NTT ドコモ(9437)

※証券コード順





◆「2014 年インターネットIR 優良賞」

116 社



日本水産(1332)
ぐるなび(2440)
ニチレイ(2871)
J. フロント リテイリング(3086)
野村不動産ホールディングス(3231)
帝人(3401)
ティーガイア(3738)
三井化学(4183)
積水化学工業(4204)
武田薬品工業(4502)
エーザイ(4523)
第一三共(4568)
ソフトバンク・テクノロジー(4726)
JFE システムズ(4832)
コスモ石油(5007)
日本板硝子(5202)
ナブテスコ(6268)
ハーモニック・ドライブ・システムズ(6324)
富士電機(6504)
富士通(6702)
日本光電(6849)
太陽誘電(6976)
川崎重工業(7012)
ユナイテッドアローズ(7606)
キヤノン(7751)
ヤマハ(7951)
丸紅(8002)
住友商事(8053)
キャノマーケティングジャパン(8060)
りそなホールディングス(8308)
リコーリース(8566)
野村ホールディングス(8604)
T&D ホールディングス(8795)
トーセイ(8923)
日本賃貸住宅投資法人(8986)
ヤマトホールディングス(9064)
エムティーアイ(9438)
大阪ガス(9532)
ベネッセホールディングス(9783)

明治ホールディングス(2269)
キリンホールディングス(2503)
日本たばこ産業(2914)
日清紡ホールディングス(3105)
産業ファンド投資法人(3249)
東レ(3402)
昭和電工(4004)
JSR(4185)
宇部興産(4208)
アステラス製薬(4503)
参天製薬(4536)
オリエンタルランド(4661)
サイバーエージェント(4751)
資生堂(4911)
出光興産(5019)
UACJ(5741)
コマツ(6301)
グローリー(6457)
日本電産(6594)
シャープ(6753)
シスメックス(6869)
村田製作所(6981)
曙ブレーキ工業(7238)
ニコン(7731)
リコー(7752)
リンテック(7966)
三井物産(8031)
日本ユニシス(8056)
千趣会(8165)
三井住友トラスト・ホールディングス(8309)
イオンフィナンシャルサービス(8570)
損保ジャパン日本興亜ホールディングス(8630)
大京(8840)
NTT 都市開発(8933)
東京急行電鉄(9005)
日本郵船(9101)
東京電力(9501)
エヌ・ティ・ティ・データ(9613)
ファーストリテイリング(9983)

総合警備保障(2331)
宝ホールディングス(2531)
ラサ商事(3023)
U K C ホールディングス(3156)
アクティバ・プロパティーズ投資法人(3279)
クラレ(3405)
トクヤマ(4043)
三菱ケミカルホールディングス(4188)
パナソニック インフォメーションシステムズ(4283)
中外製薬(4519)
テルモ(4543)
パーク 2 4 (4666)
楽天(4755)
ライオン(4912)
旭硝子(5201)
LIXIL グループ(5938)
日立建機(6305)
日立製作所(6501)
オムロン(6645)
横河電機(6841)
メガチップス(6875)
三菱重工業(7011)
富士重工業(7270)
トプコン(7732)
日本写真印刷(7915)
伊藤忠商事(8001)
東京エレクトロン(8035)
三菱商事(8058)
イオン(8267)
みずほフィナンシャルグループ(8411)
オリックス(8591)
東京海上ホールディングス(8766)
レオパレス 21(8848)
日本リテールファントム投資法人(8953)
日本通運(9062)
商船三井(9104)
東京ガス(9531)
SCSK(9719)

※証券コード順

*株式会社大和証券グループ本社は優秀賞の選定基準を満たしておりますが、表彰からは除外しております。

(ご参考) 2014 年「インターネットIR表彰」の概要

企業IRはインターネットに包摂されるという『5T&C』*の考え方のもと、上場企業のホームページを調査・評価しています。審査・選定にあたり、青山学院大学大学院国際マネジメント研究科の北川哲雄教授にご監修いただいております。

*Timely (適時性)、Transparent (透明性)、Traceable (追跡可能性)、Trustworthy (信頼性)、Total (包括性) + Communication (双方向性)

◆審査過程 <審査期間:2014 年 6 月 3 日～11 月 6 日>

■ 一次審査

上場企業 3,605 社を対象に、インターネット IR において基本となる前年同様の 6 項目に加え、新たに海外投資家を意識した IR サイト重要性から「外国語サイトの設置」を加えた 7 項目について審査しました。

- ① 適時開示情報開示/ニュースリリースの掲載状況
- ② 直近期の決算短信の掲載状況
- ③ 株主向けの任意刊行物の掲載状況
- ④ その他の任意刊行物の掲載状況
- ⑤ 決算説明会などのIRイベントの報告状況
- ⑥ お問い合わせ先の表示
- ⑦ 外国語サイトの設置

■ 二次審査

一次審査を通過した 1,403 社の日本語版 IR サイトについて、定量的評価基準である大和IRスコアボード (日本語版) に基づいて詳細に評価しました。なお、本年、大和IRスコアボード策定においては、コーポレート・ガバナンスなど非財務情報開示の重要性の高まりから、ESG を新たに大項目として設けました。

*ESG: 環境 (Environment)、社会 (Society)、企業統治 (Governance) の頭文字

【大和 IR スコアボード (日本語版) の大項目】

①トップページ	トップページがサイト内の情報へ投資家を適切にナビゲートできているか。
②コーポレートプロフィール	自社のビジネスモデル、強みのみならず業界環境などを説明しているか。
③経営方針・計画	IRに対する基本的な考え方、方針、体制等ならびに事業計画や経営戦略が説明されているか。
④ESG	法制度やトレンドを意識し、対話に必要な ESG 情報を提供できているか。
⑤株式・株価情報	株式情報、株主還元情報など投資に必要な情報を提供できているか。
⑥財務データ	主要な財務情報の掲載や財務データなどを投資家の立場にたった内容及び方法で提供しているか。
⑦IRライブラリー	IR に関連する資料が、十分な種類、量、アーカイブで提供されているか。
⑧プレゼンテーション	すべての投資家に公平な情報伝達を図るべく、IR イベントに関する情報を十分に掲載しているか。
⑨サイト使用時の留意事項	投資家が利用するにあたって、IR サイトとしての必要な注意がなされているか。
⑩コンタクト	投資家とのコミュニケーションを図るため、双方向性を意識したサイト運営がなされているか。
⑪ユーザビリティ	ユーザビリティの向上が図られているか。
⑫ICT利活用の促進	IT 技術及び新たなデバイスへの対応ができているか。

■ 最終審査 (英文審査)

日本語版の評価点が 60 点以上の 284 社の英語版 IR サイトについて、日本語版と同様に開示すべき共通項目に、英語版独自評価項目を加え、詳細な評価を実施しました。この英語版の評価点と二次審査における日本語版の評価点を日本語版:英語版=7:3 の比率で統合し総合評価点を算定しました。

【英語版独自項目の主なポイント】

- ① 英文のクオリティ。
- ② 日本語と英語の開示情報量の公平性。
- ③ 日本語と英語の開示タイミングの公平性。
- ④ 欧米で一般的なオンライン・コンテンツへの取り組み。

なお、英文のクオリティに関する審査においては、ジー・アイアール・コーポレーション株式会社(東京都港区)にご協力いただいております。

◆受賞企業選定基準と選定方法

企業におけるIRサイトの一層の充実を促進すべく、昨年の各賞の選定得点基準を5点ずつ引き上げました。

- ◎ 総合評価点が90点以上の企業を「最優秀賞」候補として選定。
- ◎ 総合評価点が80点以上の企業を「優秀賞」候補として選定。
- ◎ 総合評価点が65点以上の企業を「優良賞」候補として選定。

上記総合評価点をベースにインターネットIR表彰選定委員会にて表彰企業を選定しております。

○ 北川教授略歴

- ◆ 早稲田大学商学部卒業、同大学院修士を経て、中央大学大学院博士課程修了(経済学博士)。
- ◆ 1981年以来、野村総合研究所、モルガン信託銀行(現 JP モルガンアセットインベストマネジメント)等でアナリスト業務に従事した後、2005年より現職。
- ◆ 専門は「インベスター・リレーションズ」「コーポレート・ガバナンス」「投資情報分析」
- ◆ 主な社会的活動として、日本IR研究学会理事、証券経済学会監事、日本証券アナリスト協会試験委員・編集委員会委員、企業情報開示検討分科会委員。
- ◆ 経済産業省が取り組む「持続的成長への競争力とインセンティブ～企業と投資家の望ましい関係構築～」プロジェクトの「最終報告書(伊藤レポート)」にも参加。
- ◆ 主な著書として、
 - ① 『IRユニバーシティ IRオフィサー入門』(単著、国際商業出版)2010年
 - ② 『資本市場ネットワーク論』(単著、文真堂)2007年
 - ③ 『コーポレート・ガバナンスと企業価値』(分担執筆、石崎忠司他編、中央大学出版部)2007年
 - ④ 『企業価値向上のためのIR・経営戦略』(共著、岡田衣里他 東洋経済新報社)2004年
 - ⑤ 『証券アナリストのための企業分析』(共著、阿部大輔他、東洋経済新報社)2004年
 - ⑥ 『企業分析と資本市場』(単著、東洋経済新報社)2000年

○ ジー・アイアール・コーポレーション株式会社概要

- ◆ 1980年2月設立。本社所在地は、東京都港区赤坂5丁目2番20号 赤坂パークビルディング。
- ◆ ネイティブスピーカーで構成されるライティング セクション、エディティング セクションによる、質の高い英文作成、校閲、校正に定評。
- ◆ 東証一部上場企業を中心におよそ450社、制作したアニュアル レポートの数は2,000冊以上にのぼる豊富な実績を持つ。
- ◆ グラフィック デザイン誌「Graphics Annual Reports」のデザイン賞や日本経済新聞社のアニュアル レポート アワードでも受賞。

大和IRは、資本市場に幅広い専門分野を持つ大和証券グループのネットワークを活かし、上場企業・上場予定企業のIRを総合的にサポートしています

以上

【お問い合わせ先】 大和インベスター・リレーションズ株式会社
インターネット IR 事務局 松永/堅持
(電話 03-5555-4039 E-mail biz_dev@daiwair.co.jp)